

榎原スポーツ杯争奪交流ティーボール大会 実施要項

【試合について】

- 1 本大会は、3年生以下を対象とした野球経験の浅い選手が試合を通じて野球の楽しさやルール等を理解することを目的として行うことから、2025年度公認野球規則とは別に本大会実施要項に基づき行うこととする。
なお、グラウンドは、2025年度公認野球規則に準じて投手・本塁間は14m、塁間は21mとし、ティーボール大会独自ルールとして「投手サークル」、及び「打者サークル」(半径3.3m)を設けるものとする。
- 2 大会使用球は、マルエスJ号球とする。(試合球は、主催者側で準備する。)
- 3 試合を行うチームは、試合開始時間の30分前までにグラウンドへ集合すること。
- 4 ベンチは、抽選番号の若番チームを1塁側とする。
- 5 試合は7イニング制とし、1時間を過ぎたら新しいイニングに入らない。(決勝戦も同様とする。)
なお、同点の場合は延長戦を行わず、抽選で勝敗を決定する。
また、コールドゲームは適用しない。
- 6 審判は、4人制で行うこととし、当該試合のチームより選出すること。
なお、審判員は、当該試合の若番チームから「球審」「2塁審」、老番チームから「1塁審」「3塁審」を担当することとする。(審判を行う者は、原則、審判講習会を受講済みであること。)
- 7 「プレイ」、及び「ボールデッド」のコールは、球審の笛によるものとする。
- 8 ファウルボールの処理は、ボールの飛んだ側のベンチで処理し、バックネット側は、原則として攻撃側にて処理すること。
- 9 打者・走者・ベースコーチのヘルメット、金属バット、捕手の防具は、全て連盟公認のものを使用すること。
- 10 ベース盤は、移動固定とする。
- 11 イニングの得点が5点となった場合、攻守交代とする。

【打者について】

- 12 攻撃チームの打撃は、ベンチ入りしている選手全員が行えるものとする。
但し、試合開始後に打順を入れ替えることは禁止とする。(メンバー表へ打順を明記すること。)
- 13 球審がボールを打っていないと判断した場合、例えボールがフェアゾーンへ飛んだとしても「ファウル」とする。(ティースタンドを打った打球 等)
- 14 2ストライク後のファウル(打者サークル内)については、「ストライク」判定とし、打者は三振とする。
- 15 バントは禁止とする。(球審がバントと判断した場合は、ストライク判定とする。)
- 16 「インフィールドフライ」は適用しない。
- 17 三振後の振り逃げは適用しない。

【走者について】

- 18 走者のリードは禁止とし、離塁は打者がボールを打った時点で可能とする。
- 19 走者のスライディングは禁止とする。
- 20 走者は、1塁同様、2・3塁への駆け抜けも可とする。
但し、次の塁への進塁を試みたと判断した場合、通常ルールと同様の扱いとする。

- 21 「投手サークル」内で野手がボールを保持（完全捕球）した時点でボールデッドとし、走者はボールデッドとなった時点で占有していた塁へ戻すこととする。（「投手サークル」内でボールを保持する選手は、投手以外でも可とする。）
- 22 ベースコーチは、指導者が補助として就くことも可とする。

【守備について】

- 23 守備に就く人数は9名とする。（投手は「投手サークル」内に位置すること。）
- 24 守備側の選手交代は自由とし、一度退いた選手が再出場することも可とする。

【選手について】

- 25 原則としてユニホーム（背番号有り）、チーム帽子、スパイク着用とするが、チーム事情等によりユニホーム等を統一できない場合においても運動ができる服装（帽子・運動靴・ジャージなどを着用）であれば、試合への参加を認める。
- 26 参加選手は、必ずスポーツ保険へ加入していること。

【その他】

- 27 グラウンド内外を問わず、万一負傷などの事故が発生した場合、応急処置は行うものの、その後の治療等については、主催者側はその責を負わない。
- 28 グラウンド（応援席含む）には、ゴミ等を残さず、必ずチームで持ち帰ること。

碧南少年野球育成連盟
審判長 杉浦 文男